

2021年3月期 決算説明会



株式会社 **アイチ** コーポレーション

2021年6月4日 (金)

I. 会社概要

II. 決算

1. 20年度の業績

2. 21年度の業績見通し

III. 中期経営計画に向けた取り組み

- 【創立】** 1962年2月2日（2022年2月に創立60周年を迎える）
- 【代表者】** 代表取締役社長 山岸 俊哉
- 【本社】** 埼玉県上尾市大字領家字山下1152番地の10
- 【支店】** 6支店（宮城県、埼玉県、愛知県、大阪府、広島県、福岡県）
- 【サービス拠点】** 国内233拠点（直営15拠点、指定協力工場218拠点）
- 【工場】** 4工場（国内2工場、海外2工場）
- 【事業内容】** 電力・電気・電話・通信工事用機械化車両、及び
建設・荷役・造船・鉄道用等工事用機械化車両の製造・販売
- 【資本金】** 10,425百万円
- 【株式】** 発行済 78百万株、株主数 6,600人（2021年3月末）
- 【大株主】** 株式会社豊田自動織機（53%）
- 【従業員数】** 連結 1,094人 単独 1,001人（2021年3月末）
- 【関係会社】** 子会社3社、関連会社1社

I. 会社概要

II. 決算

1. 20年度の業績

2. 21年度の業績見通し

III. 中期経営計画に向けた取り組み

20年度の業績



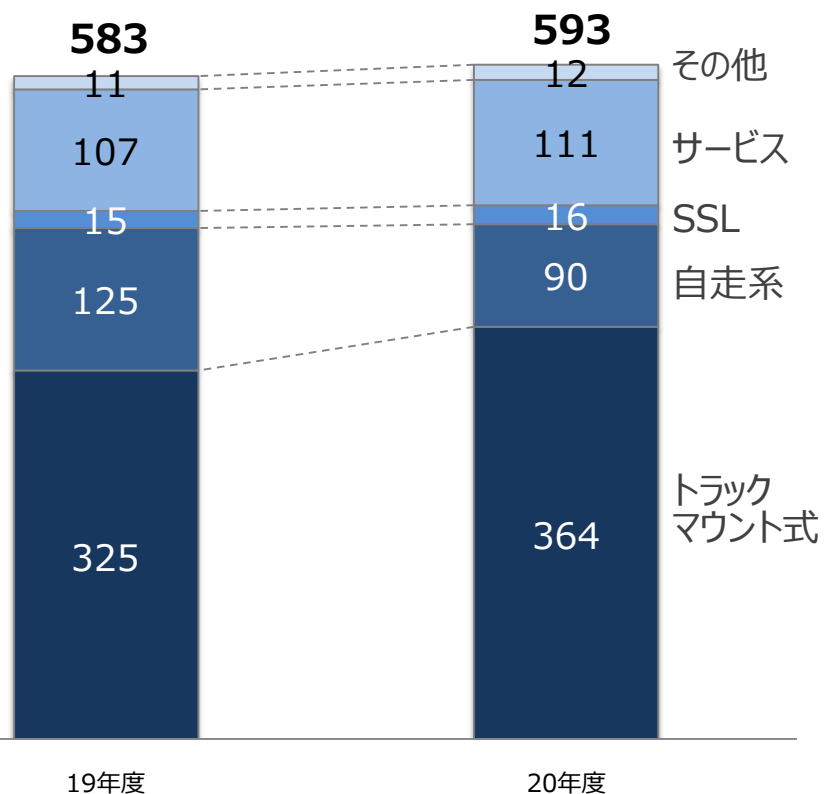
(単位:億円)

	19年度		20年度		増減額	増減率
	金額	%	金額	%		
売上高	583.3		593.3		10.0	1.7%
営業利益	58.5	10.0%	70.5	11.9%	12.0	20.5%
経常利益	62.1	10.6%	77.0	13.0%	14.9	24.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	49.2	8.4%	59.0	9.9%	9.8	19.9%
1株当たり配当金	中間	11円	中間	14円		
	期末	13円	期末	18円		
	年間	24円	年間	32円		
為替レート (USD)		109円		106円		
設備投資額		13億円		8億円		
減価償却費		18億円		17億円		

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

セグメント別売上高

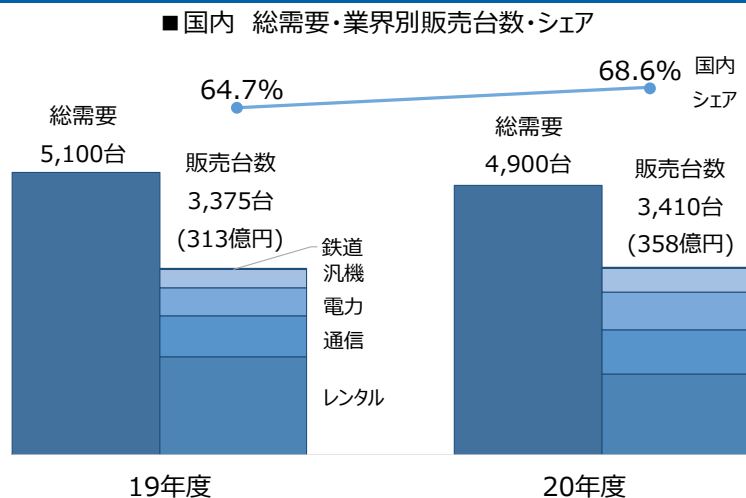
(億円)



(単位:億円)

	19年度		20年度		増減額
	金額	%	金額	%	
トラックマウント式	325	55.7%	364	61.4%	39
内)海外	12	2.1%	6	1.0%	△ 6
自走系	125	21.5%	90	15.2%	△ 35
内)海外	20	3.4%	13	2.2%	△ 7
SSL	15	2.6%	16	2.7%	1
サービス	107	18.4%	111	18.7%	4
内)海外	4	0.7%	4	0.7%	0
その他	11	1.9%	12	2.0%	1
内)海外	4	0.8%	5	0.9%	1
合計	583	100%	593	100%	10
内)海外	40	6.9%	28	4.7%	△ 12

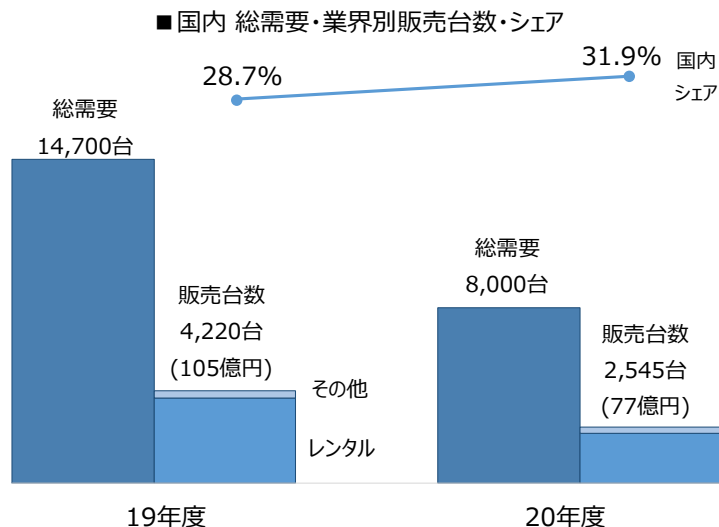
トラックマウント式



■ 業界別販売台数・比率 (単位:台)

業界	19年度		20年度	
	販売台数	比率	販売台数	比率
レンタル	1,780	53%	1,465	43%
通信	750	22%	800	23%
電力	500	15%	685	20%
汎機	330	10%	435	13%
鉄道	15	0%	25	1%
国内計	3,375	100%	3,410	100%
海外	80	-	50	-

自走系



■ 業界別販売台数・比率 (単位:台)

業界	19年度		20年度	
	販売台数	比率	販売台数	比率
レンタル	3,880	92%	2,270	89%
その他	340	8%	275	11%
国内計	4,220	100%	2,545	100%
海外	620	-	475	-

サービス

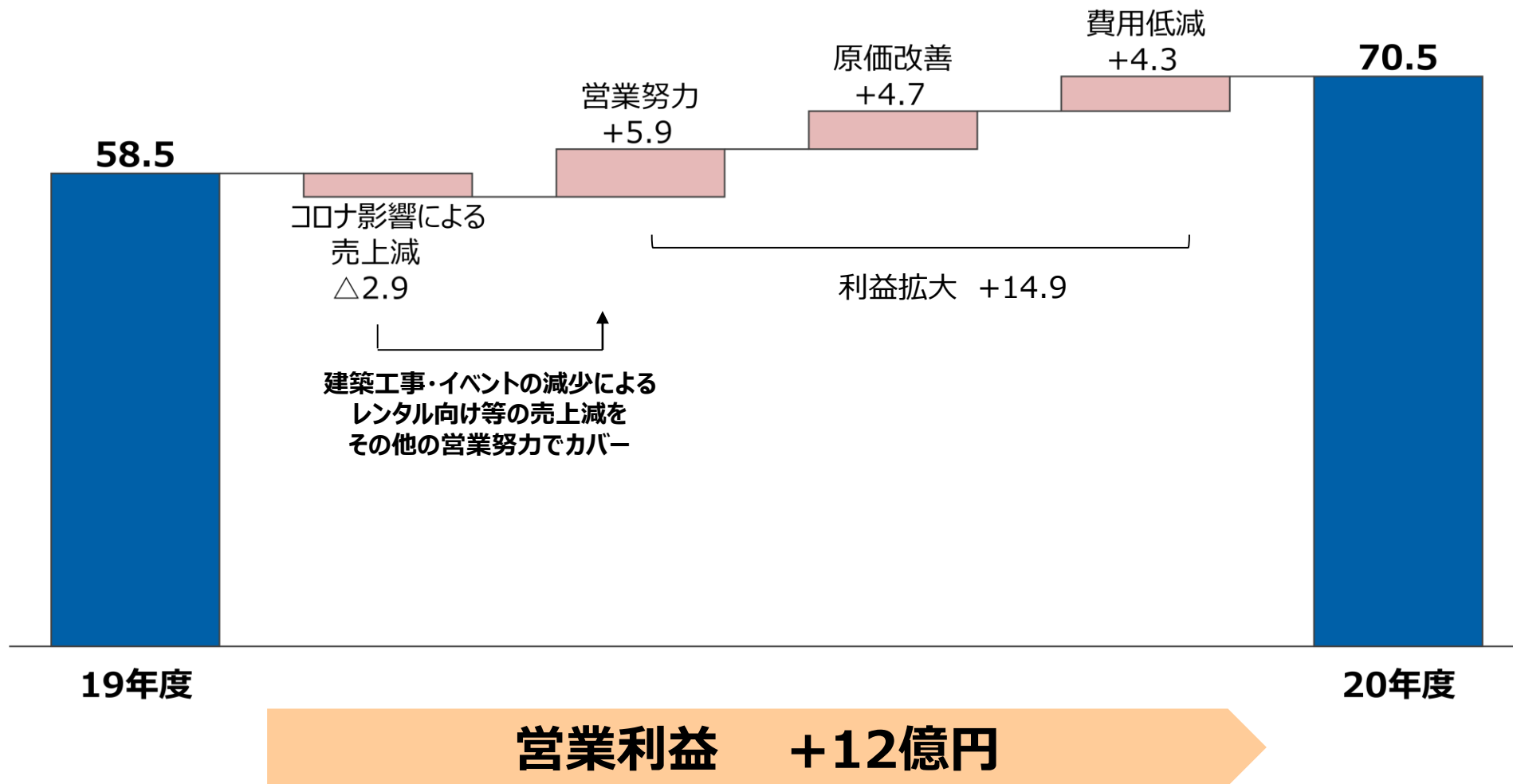
■ 売上区分別比率 (単位:億円)

業界	19年度		20年度	
	売上高	比率	売上高	比率
検査・修理他	63	59%	67	60%
部品	44	41%	44	40%
合計	107	100%	111	100%

連結営業利益の増減要因

(営業利益率 10.0%)

(営業利益率 11.9%)



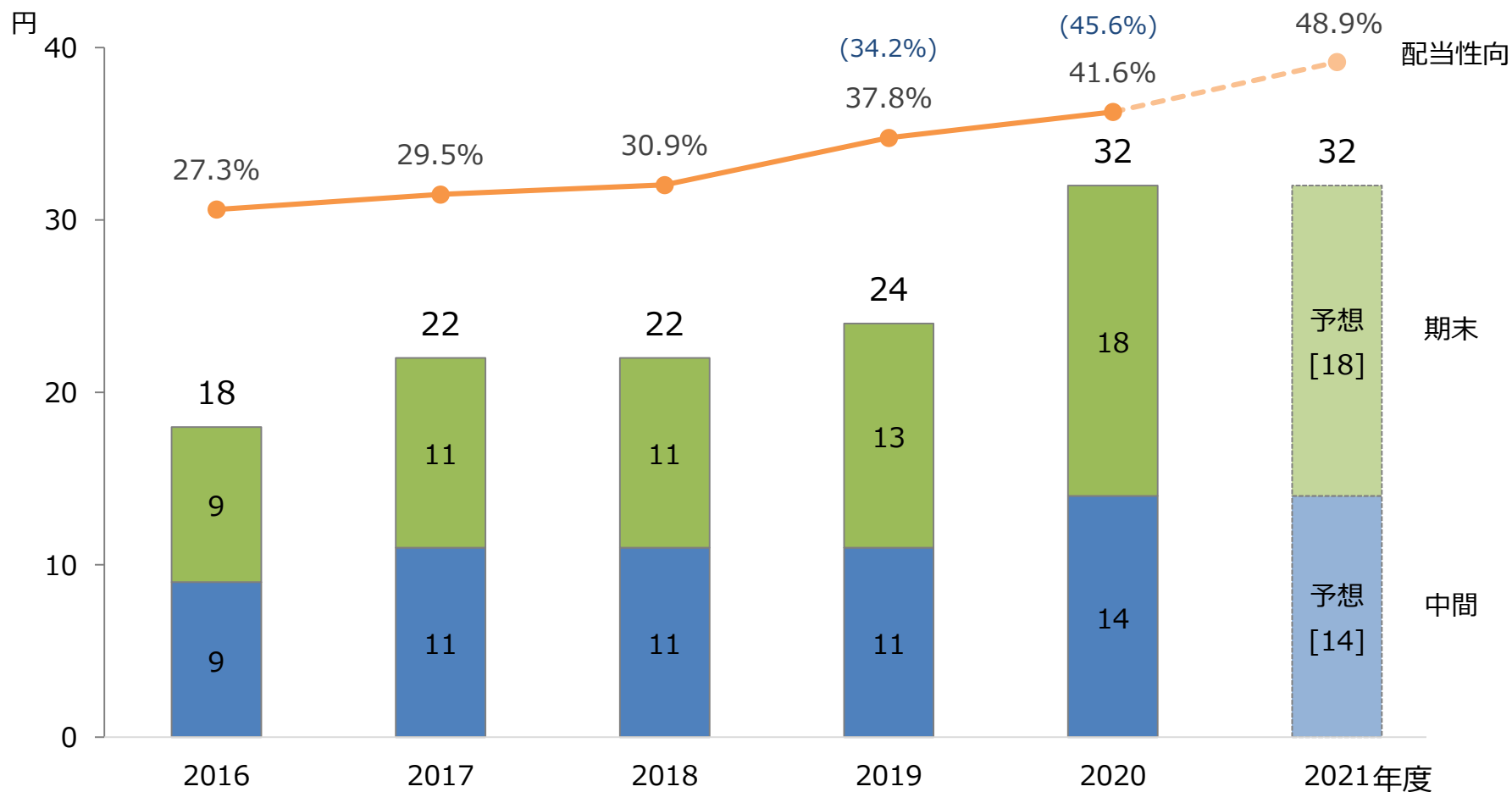
貸借対照表



(単位:億円)

		19年度末		20年度末		増減額
		残高	比率	残高	比率	
資産 の 部	現金及び預金、預け金	307	37.0%	378	41.6%	71
	売上債権	190	23.0%	195	21.5%	5
	その他	48	5.8%	37	4.1%	△ 11
	流動資産	545	65.8%	610	67.1%	65
	固定資産	283	34.2%	299	32.9%	16
合計		828	100.0%	909	100.0%	81
負債 ・ 純 資 産 の 部	仕入債務	85	10.3%	101	11.1%	16
	その他	40	4.8%	54	5.9%	14
	流動負債	125	15.1%	155	17.1%	30
	固定負債	23	2.8%	21	2.3%	△ 2
	負債 合計	148	17.9%	176	19.4%	28
	純資産 合計	679	82.1%	733	80.6%	54
合計		828	100.0%	909	100.0%	81

1株当たり配当金と配当性向



() : 2019年度に発生した仕入先被災により2020年度に受領した
 保険金収入(特別利益)を2019年度に計上した場合の想定配当性向

基本的な考え方：株主重視の観点から安定的な配当を行う

WU09B1RN

アップ&オーバ型電動高所作業車
マックスリーチシリーズ
2021年2月発売



- ふところの広いboom作動範囲
- 起伏・旋回が可能な先端ジブ
既存の梁や生産設備などの
障害物をかわして作業ポイントへ
アプローチ可能
- コンパクトボディー
狭い作業現場でも取り回しが容易



SP14D1JM

スカイマスターSPシリーズをモデルチェンジ
2020年9月発売

- 四輪駆動+揺動アクスル*による高い走破性
クローラーに匹敵する悪路走破性
- 広範囲のアプローチが可能
先端ジブ採用、最大地上高13.9m



* 揺動アクスル
路面の凹凸にあわせて四輪を追従させる装置

コロナ禍ではあるが将来のために積極的な研究開発投資を進め
お客様要望に応える新商品の投入を進める

AF13A1FB/FM 電柱元位置建替工法車

電力会社様および電気会社様と共同で開発



従来の電柱建替工事

- 仮柱を建替え対象の付近へ建柱する必要がある
- 仮柱用の用地交渉、穴掘、建柱作業が発生



本車両を使用した工事

- 仮柱の建柱が不要
- 仮柱用の用地交渉、穴掘、建柱を省略化
- **大幅な生産性向上に寄与**

21年度の業績見通し



(単位:億円)

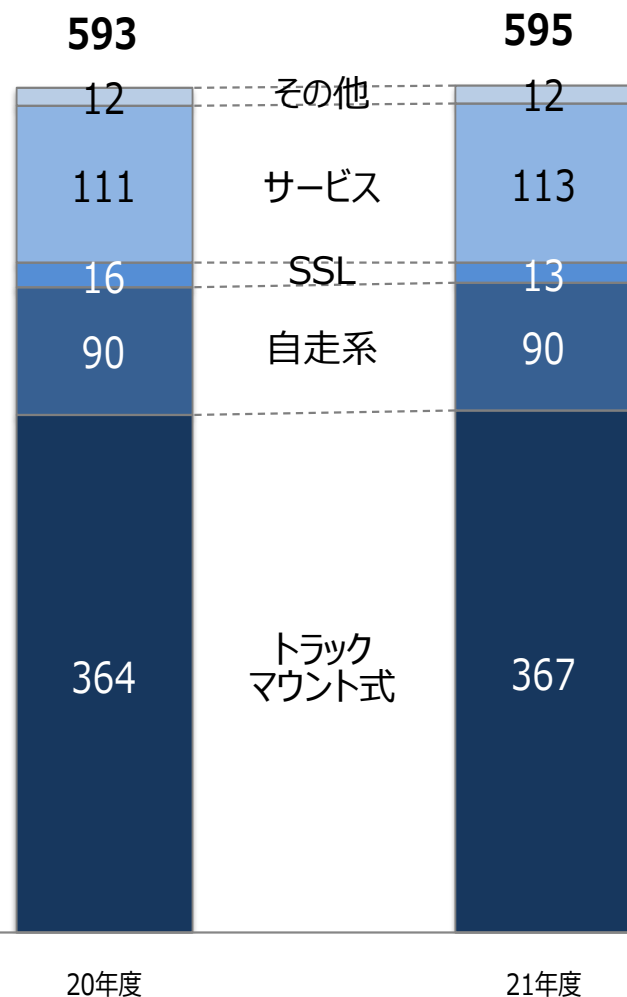
	20年度		21年度		増減額	増減率
	金額	%	金額	%		
売上高	593.3		595.0		1.7	0.3%
営業利益	70.5	11.9%	68.0	11.4%	△ 2.5	△3.5%
経常利益	77.0	13.0%	72.0	12.1%	△ 5.0	△6.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	59.0	9.9%	50.0	8.4%	△ 9.0	△15.3%
1株当たり配当金	中間	14円	中間(予想)	14円		
	期末	18円	期末(予想)	18円		
	年間	32円	年間(予想)	32円		
配当性向	41.6% (45.6%)					48.9%
為替レート (USD)	106円					105円
設備投資額	8億円					18億円
減価償却費	17億円					17億円

() : 2019年度に発生した仕入先被災により
2020年度に受領した保険金収入(特別利益)を
2019年度に計上した場合の想定配当性向

{ 設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

セグメント別売上高

(億円)



(単位:億円)

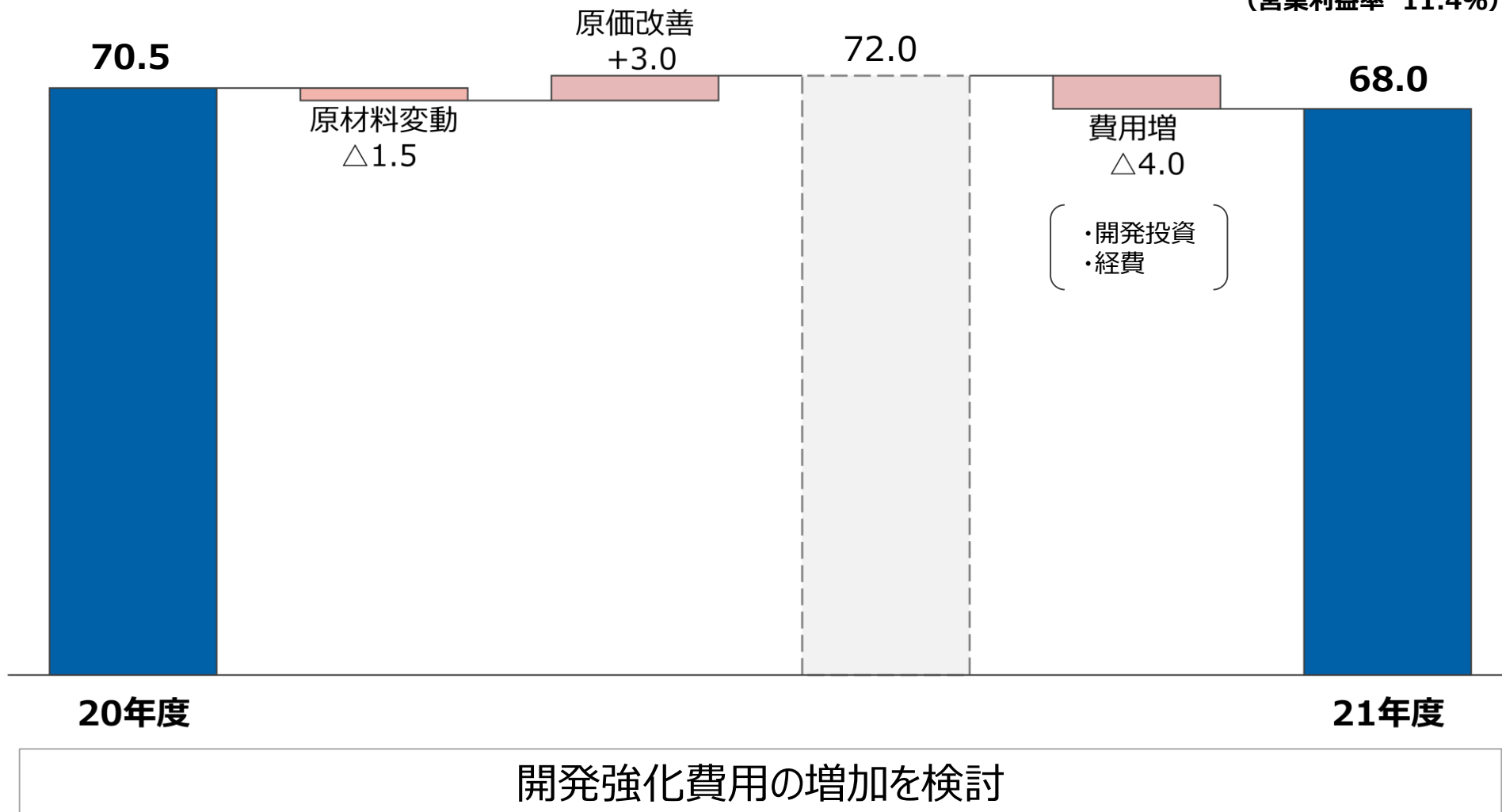
	20年度		21年度		増減額
	金額	%	金額	%	
トラックマウント式	364	61.4%	367	61.7%	3
内)海外	6	1.0%	13	2.2%	7
自走系	90	15.2%	90	15.1%	0
内)海外	13	2.2%	14	2.4%	1
SSL	16	2.7%	13	2.2%	△3
サービス	111	18.7%	113	19.0%	2
内)海外	4	0.7%	4	0.7%	0
その他	12	2.0%	12	2.0%	0
内)海外	5	0.8%	6	1.0%	1
合計	593	100%	595	100%	2
内)海外	28	4.7%	37	6.2%	9

コロナ禍長期化による売上減をその他の営業努力でカバー

連結営業利益の増減要因

(営業利益率 11.9%)

(営業利益率 11.4%)



I. 会社概要

II. 決算

1. 20年度の業績

2. 21年度の業績見通し

III. 中期経営計画に向けた取り組み

【アイチコーポレーション使命】

私たちアイチコーポレーションは、作業環境創造企業として、社会インフラ整備に携わるお客様に対し、作業の安全効率化、快適作業、環境対応、災害復旧等、様々なお客様経営課題の解決に主体的に取り組み、お客様にとってなくてはならない商品・サービスを提供することにより、力強く社会に貢献します。

4つの柱

お客様にとって
「なくてはならない企業」へ

- 災害発生時のお客様サポートシステムの確立
- 脱炭素社会への挑戦（Eco-Aichiの進化）

海外事業の新展開

- 成長市場への積極投資と事業再構築
- お客様視点追求による代理店との連携

収益構造改革の推進

- 内製機能（カスタマイズ、機能部品）強化
- リードタイム短縮と仕入先様との連携強化

中期的成長を支える
経営基盤の強化

- 「共感」「全員経営」を基本としたTQM活動推進
- 腕、知恵、心を継続的に高める人材育成

CAS
Connecting Aichi Support





迅速に・安全に・効率よく、更なる改善を続けること
CASは終わりのない活動、新しい変化を創造してまいります

Development

お客様と共に災害復旧
専用機材の開発の推進



Information

IoTを駆使した
有事のデジタル情報活用



情報伝達/共有のしくみづくり
IoT端末や携帯アプリの活用

Service

全国233カ所のサービス拠点
ネットワークによる24時間
災害復旧支援体制



北海道地区 (19拠点)	北陸地区 (14拠点)	中国地区 (14拠点)
東北地区 (38拠点)	中部地区 (26拠点)	四国地区 (13拠点)
関東地区 (45拠点)	関西地区 (23拠点)	九州地区 (41拠点)



サステナビリティアクション アイチグループ 環境方針

2050年のカーボンニュートラル社会を見据え、環境への取組を加速してまいります。

【アイチグループ環境方針】

・低炭素社会の構築

⇒事業活動・製品でCO₂排出ゼロへの挑戦

・循環型社会の構築

⇒資源使用量のミニマム化

・環境リスク低減と自然共生社会の構築

⇒事業活動に伴う汚染の予防

・環境マネジメントの推進

⇒環境マネジメントの強化と意識啓発活動の推進

生産活動

区分	対象	管理項目	管理レベル (2025年度)
低炭素社会	生産CO ₂	総量	25%削減 (2013年度基準)
		再エネ導入率	15%以上

商品の進化

区分	対象	取組方針
低炭素社会	製品	・Eco-Aichi商品の進化
循環型社会	製品	・資源を有効に利用するため、3R ^(※) 設計への取組
リスク低減	製品	・各国、各地域の都市大気環境改善に資する排出ガス削減 ・製品含有化学物質管理

※3R： Reuse (使える物は繰り返し使う)
Reduce (物を大切に使い、ごみを減らす)
Recycle (ごみを資源として再利用する)



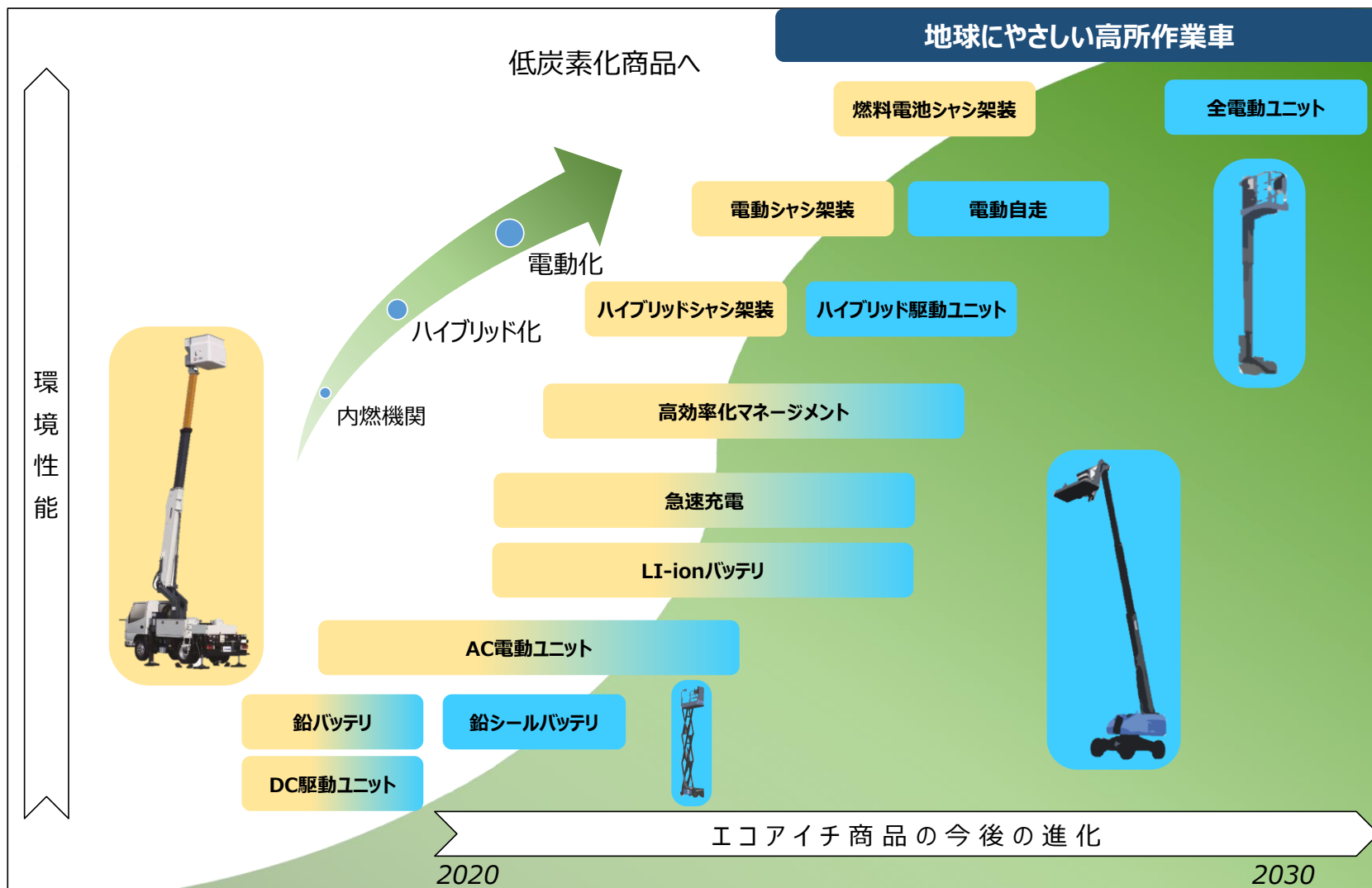
新治工場のソーラーパネル



スカイマスター
SN15C1FS

サステナビリティアクション

EcoAichi 商品の進化 [脱炭素社会への挑戦]



この配布資料に記述されている、弊社の予想、見通しは、現在入手可能な情報から得られた弊社の経営者の判断に基づいています。

従って、この業績予想に全面的に依拠することはお控え頂きたく、お願い申し上げます。

また、これらの数字に関しては、様々なリスクや不確実性により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

ここでのリスクや不確実性とは、弊社を取り巻く経済情勢、お客様環境、競合環境、関連法律・法規、為替レートの変動などが含まれます。

ただし、業績に与え得る要因はこれに限定されるものではありません。